

籠耳

卷之三

305
119



始



305
119

繪入
籠耳

かたれど
奥より
右活かし

三

六

狗子イヌノコ知チ路ロ

昔々しき物語に記す所の
自來の泉三ノ木が智徳

七

紙カミ交カウ為ニ牆カキ

ういさのりよまふいぬとび
甘平江州白を紙といはれ

八

肩カミ古コ五イ

田舎の野郎は六尺三寸
甘平頼朝本津を縁治るは位

蘇取巻之三

蘇ス取ク巻マキ之三

伊賀の上野やちちをいれぬのよまらふらふら
夜からされて金も蘇もいれぬ。いれぬ人といふは
方よと沈傳とといふ刀はち。これ蘇のまろここれ刀と
花もぞんたて蘇もいれぬ。花もいれぬ。いれぬ。いれぬ。
こいふ。こいふ。こいふ。こいふ。こいふ。こいふ。こいふ。こいふ。
よい。よい。よい。よい。よい。よい。よい。よい。よい。よい。
夜もいれぬ。夜もいれぬ。夜もいれぬ。夜もいれぬ。夜もいれぬ。
こい。こい。こい。こい。こい。こい。こい。こい。こい。こい。
これ。これ。これ。これ。これ。これ。これ。これ。これ。これ。

とあるに医者と弊園といふにこれと牧の事と
 牧は医者の名をそくばりてその一牧は白札
 てい病に病すといふもいふに白札はあつていふ
 中よりいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 もらひいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 好り醫者二人されれば牧三人好れればと牧の事と
 弊園とそらんすといふ一牧はあつていふもいふも
 幸殿の医者といふもいふもいふもいふもいふも
 幸殿といふもいふもいふもいふもいふもいふも
 にもいふもいふもいふもいふもいふもいふも
 といふもいふもいふもいふもいふもいふも
 といふもいふもいふもいふもいふもいふも



わさびぬくはまぐいさのいそり解きたるいべえ
も駿毛のうも黄いろなき鞍後とくけりうらぬと
いそらうらいた餅むしとま衛云はつていひ
ゆいそらうらいた餅むしとま衛云はつていひ
とこのうら餅むしとま衛云はつていひ
まうらうらいた餅むしとま衛云はつていひ
とと足とゆるるるるるるるるるるるるるるる
えてたらは花雷いさびらかびてくくくくくくく
おららららららららららららららららららら
さびらららららららららららららららららら
か何いぞん虚室とめきり先づゆと死と故郷人
ととと李衛云はつていひつが故郷人もころ早懸

ておとこひまかやぞにたれまひむいさふと十満余
こぼせーやとれ故郷の清水いぞ半比よ水と丈の
まるとゆり田畠氏家とくしをさうれまるととまん
ワとーいせぬゆ十のうら後もれととせ
くろよの熱よまさりてぬめをよとやひよとて晴る
うんととくくくくくくくくくくくくくくくく
らぬよるれはまままままままままままままま
ふいせとーとらゆいさゆとくくくくくくくく
か先んけら卵鳳凰の籠とのえとそらかり聖人と
麒麟鳳凰よたと漢人も祖むしとつとてかそり
くくく類はつとくくくくくくくくくくくくくく

置てけて野はるる人々のいふたうに
大の領の文とゆひつけたるがな
あとのとく氏政の味ふるよ六十騎
くよせまれの野も軍もたぬ人
て時とらき先作らよれい
よゆひはるるよとに
されどよをよ信びぬ
四五里ゆかどふわら
ふさて色林とあき先小田の
あまたに陳とさわ狼煙と
とらけんやのよに小田
よあはれとてのよをよ
もよ代はよのよのよ
もよ代はよのよのよ

我が上使一りたふよと人これ別家りよ
よあはれとてのよをよ

能登考橋

いへは外野村のよ立所は
而姓あははのよな
とありの家よぬと人
とよとらわよ
よとてん
まうぬれ
よ味
といわ
よま

とつりまらしとてあてせいたる兒男されがせい、
酌といひつけしとるの物かくとほきも濡れしとて
いれまじとて心こめてこれの酒を飲ませりて
侍の殿次といひし一、南無の津屋とて酒の
うらに飯酒とて酒はちの酒人おとほりよの
るわりと来り来りの酒を飲せし酒はちり
とて酒を乃男と殿次といひし酒の酒を
貯しぬとていひし酒の酒を貯しぬとて
はちの酒とて酒はちの酒を貯しぬとて
はちの酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
いひし酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒

持たぬわらわしとて酒の酒を貯しぬとて
てとて酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
るれとて酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
乃君とて酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
とて酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
乃君とて酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
とて酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒
酒の酒を貯しぬとて酒はちの酒

305
119

印行三百部之内
第 一 號

會 製 報 書 簿

品 賣 奔
東京市牛込區富久町八十四番地
製 行 所
米 山 堂

昭和十四年三月廿五日印刷
昭和十四年三月廿八日發行

新 生 期
第 五 回

W. 119-305

終